

## 事業評価調書（新規）

課 名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 福田 稔 (県営整備係長 岩崎 良信)	内線	4003 (4014)
-----	---------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	事業区域	総事業費	5.9億円
		農地集積加速化 基盤整備事業	万勝寺脇本地区	内用地補償費	0.2億円
所在地			事業採択予定年度	着工予定年度	完成予定年度
小野市万勝寺町、脇本町地内			H22	H22	H26
事業目的				事業内容	
<p>本地区は、昭和30年代に丘陵地を開拓し、水稻を中心とした小規模な個別経営農家が主体の地域であり、小区画で不整形な農地が多く、農道も狭小、また水路の老朽化が著しい状態で、農業従事者の高齢化や後継者不足から一部には遊休農地も発生している。</p> <p>このため、関係農家は普及センターが指導する「集落営農なんでも塾」に参加するなど将来の地域農業について話し合った結果、農業の担い手として法人化をめざす集落営農組織を設立して、水稻、麦、大豆を主体とした土地利用型農業を展開するとともに、地区で生産された酒米(山田錦)の米粉パンへの加工による地産地消の拡大、野菜(大根、にんじん、ばれいしょ等)の農産物直売所への出荷量の増大等を図ることにより地域農業の持続的発展を目指すこととなった。</p> <p>この目標を達成するため、土地利用型農業に適したほ場の大区画化と大型機械の導入等による生産コストの削減、さらに担い手への農地の面的集積を進めることを目的として基盤整備を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区画整理 31.6ha</li> <li>・ 負担率 [国:50%, 県:27.5%, 市:10%, 地元:12.5%]</li> <li>・ 事業主体 兵庫県</li> </ul>	
評価視点	評価結果の説明				
(1) 必要性	<p>当該地区においては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 麦、大豆の作付面積の拡大により農地の高度利用を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麦の生産面積 : 1.6ha → 5.0ha</li> <li>・ 大豆の生産面積 : 0.4ha → 6.5ha</li> <li>・ 耕地利用率 : 105% → 116%</li> </ul> </li> <li>② ほ場の大区画化により、労働生産性の向上を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>水稻の10a当り労働時間 : 33.0hr → 14.4hr</li> </ul> </li> <li>③ 集落営農組織への農地利用集積を図り、法人化を目指す <ul style="list-style-type: none"> <li>農地の利用集積率(事業完了5年後) : 67.1%</li> </ul> </li> <li>④ 地区で生産された酒米(山田錦)を原材料とした米粉パンを学校給食に提供することにより、地域の活性化を図る</li> </ol> <p>など、事業の必要性は高い。</p>				
(2) 有効性・効率性	<p>総費用総便益費 B/C=1.16 (総便益額 B=861百万円、総費用 C=744百万円) 投資効率が1.0以上であり、事業として効果が十分期待できる。</p>				
(3) 環境適合性	<p>近隣に5戸の畜産農家が存在する本地区においては、耕畜連携による土づくりを推進して環境創造型農業の拡大と採れた野菜の農産物直売所への出荷による地産地消の推進が期待できる。また、のり面には、地被植物(イワダレ草等グランドカバープランツ)を植栽し、雑草除去に掛かる労力の軽減と周辺景観への配慮が期待できる。</p>				
(4) 優先性	<p>本地区は、集落営農組織を中心とした地域農業の持続的発展を目指しているため、早急に事業着手してほ場の大区画化や用排水路の整備を行うことにより、集落営農組織への農地利用集積を加速的に進める効果があるなど、その優先性は高い。</p>				

(注) 別に定める指標評価表、図面等を添付すること。

平成22年度新規採択希望農地集積加速化基盤整備事業 万勝寺脇本地区 計画一般図

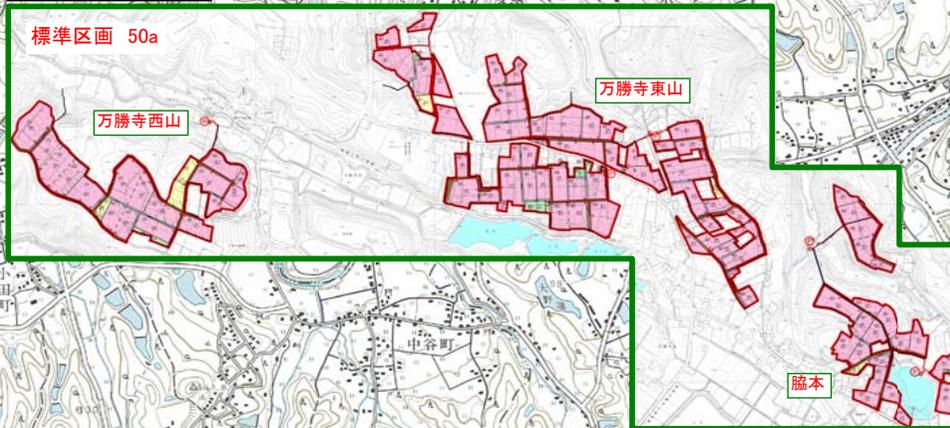
現況航空写真  
(不整形田)

平均区画 12a



整備後

標準区画 50a



縮尺 1/25,000

小野市

国道175号線

ひまわりの丘公園  
サンパティオの直売所

用排兼用土水路



土水路

狭小な農道



現況幅員 2m

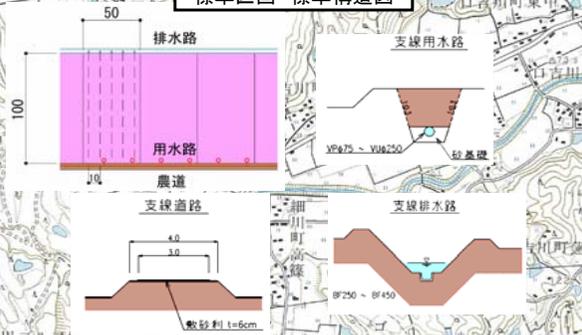
小野市有機資材生産組  
合堆肥処理施設

区画整理 A=31.6ha

小野市有機資材生産組  
合堆肥処理施設



標準区画 標準構造図



■新規事業

○当初事業

農地集積加速化基盤整備事業 万勝寺脇本地区 事業スケジュール

工種	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	備考
実施設計			←					
区画整理工				←				
その他(換地)				←				

○B/C根拠

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
ほ場整備	①作物生産便益 (農作物の収量増加による便益)	作付の増加による収量増と湿田の改良によって収穫量が増えることによる収益の増加の合計  作付増減面積×現況単収+改良効果発生面積×(計画単収-現況単収)
	②営農経費節減便益 (大型機械化により作業時間が減少することによる経費節減便益)	区画整理により大型機械での作業が可能になり、作業時間が減少することによる経費節減額  (現況単位当り営農経費-計画単位当り営農経費)×節減効果発生面積
	③維持管理費節減便益 (水路の泥上げや草刈などの維持管理に要する費用節減便益)	既設の施設にかかる維持管理費と計画施設にかかる維持管理費との比較による経費節減額の合計  既往施設維持管理費-計画施設維持管理費
	④耕作放棄防止便益 (耕作放棄の防止に伴う作物生産が維持されることによる便益)	耕作放棄の発生が想定される農地が有している作物生産の年増加額と多面的機能の効果額の合計  事業が実施されなかった場合に予測される耕作放棄面積×単位当たり年増加額
	⑤農業労働環境改善効果 (農作業環境が変化し、営農に係る労働が質的に改善されることによる便益)	受益者に支払い意思額を尋ねることでその価値を直接的に評価する手法であるCVMにより測定し年効果額を算定する  労働改善に対する支払い意思額×受益面積

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(総便益)		C(総費用)			B/C
		便益額(百万円)	代表的な効果	総費用(百万円)	事業費(百万円)	維持管理費(百万円)	
ほ場整備	農地集積加速化基盤整備事業	①作物生産便益	215	大豆・小麦の作付増 2.0ha→11.5ha	744	588	1.16
		②営農経費節減便益	677	水稻営農時間 33.0h/10a →14.3hr/10a			
		③維持管理費節減便益	△55	水路のライニング等に伴う維持管理費の減			
		④耕作放棄防止便益	1	耕作放棄発生率 0.64%			
		⑤農業労働環境改善効果	23	支払い意思額 4,145円/10a/年			
		計	861				

費用便益比算定：「土地改良事業の費用対効果分析に関する基本指針の制定について」

(農林水産省農村振興局長通達)